

関東学生救急メディカルラリーを行いました

メディカルラリーは、医師・看護師・救急隊からなる医療チームが、災害・救急現場を想定した場面で模擬活動を行い、治療とケアに関する知識・技術・態度を制限時間内に競う競技会です。

3月24日、関東・中京・関西の医療系の大学・専門学校27校から医学生・看護学生・救急救命士学生の競技参加者70名と運営スタッフ約60名が、国立看護大学校に集いました。

競技参加者は1チーム7~8名で競技ステーションを順に回り、課題に取り組みました。学校や学科の垣根を超えた今回のラリーを通して、目の前の「患者さん」と「ご家族」の状況に応じた、より適切な医療・看護および救急災害対応のあり方を、実践的に学ぶことができました。



「救急搬送された病院」で、救急隊から引継ぎ、連携して観察・判断・処置をしています。



開始前、幹部がスタッフに確認をしています。



「災害避難所」で被災者の話を聞き、何が必要か話し合いました。



「事故現場」での緊急対応をしています。

「重症集中ケア」「救急外来」の場面で、状況を判断し、対応を検討しています。



競技後の講評を熱心に聞いています。



最後に、全員で記念撮影をしました。

参加者の声

「自分の限界を感じた。もっと疾患のこと、看護のこと、チームの職種と連携のことを勉強したいと思った。」
「判断に迷うことが多かったが、そういうときこそ基本に立ち返ることが大事だとわかった。」
「災害や救急のときだからこそ、看護の視点、安心を提供できる言葉掛けが重要と思った。」
「勉強会を開いてきたが、焦ってうまくできなかった。でも楽しく参加できたので、もっと経験を積んでいきたい。」

謝辞

今回のラリーの企画・運営にあたり、多くの医療系大学・専門学校の学生の皆さん、看護師・救急救命士・医師の方々にお世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。